



MON Nara 通信



Numéro 14

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

DÉCEMBRE 2022 12月

これからの催しご案内

美術クラブ第6回特別例会「南城さんのアートスタジオでの忘年懇話会」 《美術を愉しむ～目から鱗の感動を》

美術クラブでは、毎回、終了後の懇親会が大いに盛り上がり、散会を惜しむ声が多く聞かれます。そこで、今回は、南城さんのお話に加え、懇親会の部分を拡大し、忘年会を兼ねて、行おうというものです。

- ❖日時:12月24日(土) 13:00～15:30 ❖会場:南城さんのアートスタジオ(正倉院側)
- ❖集合時間・場所:12:45に、近鉄奈良駅の行基さんの前周辺に集合してください。(変更の場合は、参加者に連絡します)
- ❖会費:会員1,000円、一般1,500円。飲物、食べ物の差し入れ歓迎。(南城さんのスタジオ行き帰りの交通費は自己負担)
- ❖おつまみ程度の軽食は用意しますが、それでは足りないと思われる方は昼食を済ませておいてください。
- ❖問合せと申込先: sugitani@kcn.jp tel:090-6322-0672(杉谷)。最大定員12名、先着順とします。

★南城守さんからのメッセージ:疫病、自然災害、戦禍...不安に苛まれた令和4年から、次は安寧と希望の新しい年の到来を願って、一献傾けながら美術・藝術談義はいかがですか。テーマは「美術を愉しむ～目からウロコの感動を」。コロナ以前は毎年パリで新年を迎えていましたが、さすがに3年は間が空き過ぎて、ルーヴル美術館で開催されたレオナルド・ダ・ヴィンチ展の重厚なカタログを懐かしく眺めています。来る2024年の奈良日仏協会創立30周年記念事業案「パリ芸術探訪」にはワクワク感満載。構想を楽しく練りましょう。写真はギャラリーに飾っている私の最新作。モチーフはサモトラケのニケ像、ダ・ヴィンチが描いた「ウィトルウィウスの人体均衡図」、古代ギリシア幾何形態、そして夢殿八角堂、救世観音像、アマテラス幻想、淀川花火大会...と、東西美術へのオマージュ?がごちゃ混ぜになった「美の交流」です。左右の角度で絵が動くトロンプ・リュウでもあり、ご笑覧あれ!



「美の交流 2022」ミクストメディア

第59回奈良日仏シネクラブ例会『ローラ』(ジャック・ドゥミ特集①)

- ❖日時:2023年2月26日(日) 14:00～17:00 ❖会場:奈良市西部公民館5階視聴覚室(予定)
- ❖プログラム:『ローラ』(Lola, 1961年, 85分) ❖監督:ジャック・ドゥミ ❖参加費:会員200円、一般300円
- ❖問い合わせ:Nasai206@gmail.com tel. 090-8538-2300(浅井)



『ローラ』(1961)は『シェルブールの雨傘』(1964)や『ロシュフォールの恋人たち』(1967)で知られるジャック・ドゥミ監督の長編第一作。舞台はドゥミの故郷でもある港町ナント。「ローラ」の名前でキャバレーの契約歌手兼ダンサーとして働きながら幼い息子イヴォンを育てるセシル(アヌーク・エーメ)。イヴォンは初恋の男性ミシェル(ジャック・アルダン)との忘れ形見。セシルは7年も音沙汰のないミシェルを待ち続けている。ナントに一時滞在中のアメリカ人水兵フランキーに口説かれたり、10数年ぶりに偶然再会した幼なじみのロラン(マルク・ミシェル)からプロポーズされるが、彼女はひたすらミシェルへの愛を貫こうとする。港町ナントでは様々な人々が交錯し、それぞれ夢のような時を過ごし、やがて町を去り、戻り、また離れていく。ミシェル・ルグランの音楽、ナントの町の「ポムレー路地」他のモノクロ映像が詩情をそえる。『男と女 人生最良の日々』(2019)で80代後半になってもなお内面から輝く美しさで観客を魅了した女優アヌーク・エーメの若き日の美しさには息をのむばかり...

2023 年度総会のお知らせ

奈良日仏協会の 2023 年度総会を下記のとおり開催する予定です。日ごろの協会活動へのご感想やご希望を話し合う良い機会ですので、ぜひご参加ください。懇親会は実施の方向で、現在企画中ですが、コロナ感染の状況により、中止の可能性もあります。詳しくは、1 月下旬にお届けする案内状をご覧ください。

❖日時:2023 年 2 月 11 日(土・祝)15:00～ ❖会場:野菜ダイニング「菜宴」(奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F)

活動記録

★10 月 9 日(日):秋の教養講座 2022「フランス語とともに歩んだ道」(講師:大西弘)

★10 月 30 日(日):第 58 回日仏協会シネクラブ例会『ラ・ポワント・クールト』(アニエス・ヴァルダ特集②)

★11 月 27 日(日):第 151 回フランス・アラカルト「ラ・ロシュエルの魅力を語る」(ゲスト:ロード・ギエム)

いずれも、詳細報告は、Mon Nara 2 月号をご覧ください。

《2022 年度第 5 回理事会報告》…事務局

☆日時:2022 年 11 月 17 日(木)15:00～16:40。 ☆場所:野菜ダイニング「菜宴」。 ☆出席者:三野、浅井、高松、菌田、杉谷。 ☆議題
1. 2022 年度会費納入額・会員数。 2. 前回理事会(9/15)後の活動:秋の教養講座 2022「フランス語とともに歩んだ道」(10/9)、第 58 回シネクラブ「ラ・ポワント・クールト」(10/30)。 3. 今後の行事:第 151 回フランス・アラカルト「ラ・ロシュエルの魅力を語る」(11/27)、美術クラブ第 6 回例会「南城さんのアートスタジオでの忘年懇話会」(12/24)、総会(2/11)、第 59 回シネクラブ(2/26)、来年の秋の教養講座、フランス・アラカルト。 4. Mon Nara、Mon Nara 通信。 5. その他:「ニューブランシュ KYOTO カクテルパーティ」(10/1)。 6. 次回理事会:2023 年 1 月 12 日(木)15:00～16:30 「菜宴」。



後記 ☆Mon Nara 通信 12 月号をお届けします。 ☆フランスもかつてはイギリスと同様、植民地を開拓していた時期があり、その領土は、アメリカ、カナダ、南太平洋、東アジア、アフリカと、世界各地に広がっていました。今もその名残が海外領土として残っています。南米にもフランスの海外県が残っているのを最近知って驚きました。ところで、昔、インドの東南部に、ポンディシエリという植民地があったのをご存知でしょうか。私はモーリス・マグル(Maurice Magre)という作家の『Nuit de haschich et d'opium(ハシッシュと阿片の夜)』という中篇小説で知りました。インドを統治している上流階級の男女の駆け引きが、ポンディシエリの古い仏塔のある遺跡を舞台に繰り上げられる話です。19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのヨーロッパは、植民地気運を背景にした異国趣味全盛の時代で、ロティやラシルドら多くの作家が中近東やインド、中国、日本を舞台にした小説を書いています。この作品も 1920 年代に書かれたもので、その頃は、ポンディシエリはまだインドに返還されてはいませんでした。この本はインドの出版社から格安で購入したもので、出版社の所在地がやはりポンディシエリ。フランス語の本をインドで出版するというのは不思議なものですが、フランス植民地時代の置き土産のひとつかも知れません。そう言えば、かつてフランスの植民地だったベトナムへ旅行したとき、本格的なフランス料理のお店がたくさんあって、本国の三分の一以下の値段で食事とワインを楽しめたのを思い出します。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。Mon Nara 2 月号は 1 月 31 日が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方は**、1) 内容がフランスに関わるもの、2) 本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2022 年 12 月 numéro 14

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者:三野博司